

# 2018 年度秋季大会報告

## 「わかばさんいらっしやい」 第1日目 12:10-12:55

担当： 吹原豊・中山英治

本大会1日目の12時10分から「わかばさんいらっしやい」が始まりました。他会場のイベントの影響が、開始時間の段階ではまだ少数でしたので、その時間に「自己紹介カード」を使つての交流を行いました。今回も多様な背景をもつわかばさんに来ていただくことができました。大学院生のわかばさんが多かったのですが、一般社会人を経験されてから日本語教育に関わるようになったという方もいらっしやいました。

最初は緊張した表情のわかばさんもいらっしやいましたが、スライドを使った説明が進むにつれて表情や反応が豊かになっていきました。最終的な来場者数は9人でした。昨年の半数程度でしたが、その分質問の時間や個別に対応が受けられる時間が多めに取れたともいえます。アンケートの結果でもすべての参加者から「大会について理解できた」との回答が得られました。そして、その後に予定されているさまざまなイベントに興味を持っていたことができ、翌日開催の「ぶらさ da わかば」などへの参加につなげられた点は良かったと思います。



参加者のみなさんに大会での時間を有意義なものにするためのステップをご提供できたのではないかと思います。

## 「わかば・コンシェルジュ」 第1日目 12:00-16:00／第2日目 8:45-14:00

担当： 松本明香・柳田直美

「わかば・コンシェルジュ」は、大会1日目は12時から、2日目は8時45分から始まりました。1日目は、受付を終えた後、向かいにあるコンシェルジュブースに足を止めて、自分の目的のイベント会場やクロークなどの場所を確認しにいらっしやる方が多かったようです。「わかばさんいらっしやい」の開催場所を聞きにくるわかばさん、また「わかばさんのための大会チェックリスト」をコンプリートして、記念品の缶バッジを受け取るわかばさんもいらっしやいました。そして今大会も記念写真撮影用の顔出しパネルが活躍しました。わかばさんだけではなく大会に参加された多くの皆さんにとって、良い記念写真を撮っていただけたのではないかと思います。大会2日目は、「ぶらさ da わかば」の予約の抽選会から始まりました。予定していたセンパイ方のすべての予約が埋まり、すべての予約が埋まった後も、数人の来訪者がありました。委員一丸となって、わかばさん始め、多くの参加者の方々にとって実りの多い大会となることを目指しました。今後もさらなるチャレンジの可能性を探っていきたいと思います。



## 「ぶらさ da わかば」 第2日目 12:10-13:20

担当： 松尾慎・三代純平

「わかば」の頃、日本語教育の世界で自分の先を歩いているセンパイと交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問を相談したりすることができるかもしれません。しかしながら、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持ったりすることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のために立ち上げた「ぶらさ da わかば」も早いもので今回 6 回目の実施となりました。

実は、2年前にこの「ぶらさ da わかば」に参加したのがきっかけである大学の大学院に進学した「わかば」さんが今回の大会で発表をしたそうです。このようにこの企画は「わかば」さんのキャリア形成に一定の役割を持ちつつあります。



今回は、14名の学会員の方にセンパイを引き受けていただきました。12時10分に対話が始まると、身を乗り出して話しているペアもいれば、具体的な資料を示しながらわかばと対話するセンパイの姿も目につきました。あっという間に対話時間の40分が経過し、「終了」を伝えたあともしばらくは対話を続けるセンパイ&わかばペアもいました。そして、インスタ映えするオリジナルパネルを使って笑顔の記念写真（もちろん、センパイとわかばさんのペア写真）で幕を閉じました。対話後のアンケート結果には建設的なコメントを多数いただきました。今後も少しずつ改善を重ねながらこの企画を続けていきたいと思っています。

## 総括

担当： 奥田純子

今回の沼津の大会は、場所よし、設備よし、それに食よしで、天候にも恵まれ、チャレンジ支援事業にもさまざまな背景を持つわかばさんの参加がありました。チャレンジ支援委員会における大会での3つの企画事業は、沼津の大会で丸3年目に入りました。先にご報告した各チームの事業も、おかげをもちまして、学会員のみなさんに広く知っていただけるようになり、また、多くのセンパイ会員のみなさま方にも、わかばさんの支援をしていただきました。誠にありがとうございました。大会でのいずれの事業も回を追うごとに質的な深化が見られるようになったと感じています。今後は、より多くのわかばさんへの支援へと拡大できるよう委員会一同、意を決しているところです。今後ともチャレンジ支援事業へのご協力、ご助言、よろしくお願いいたします。